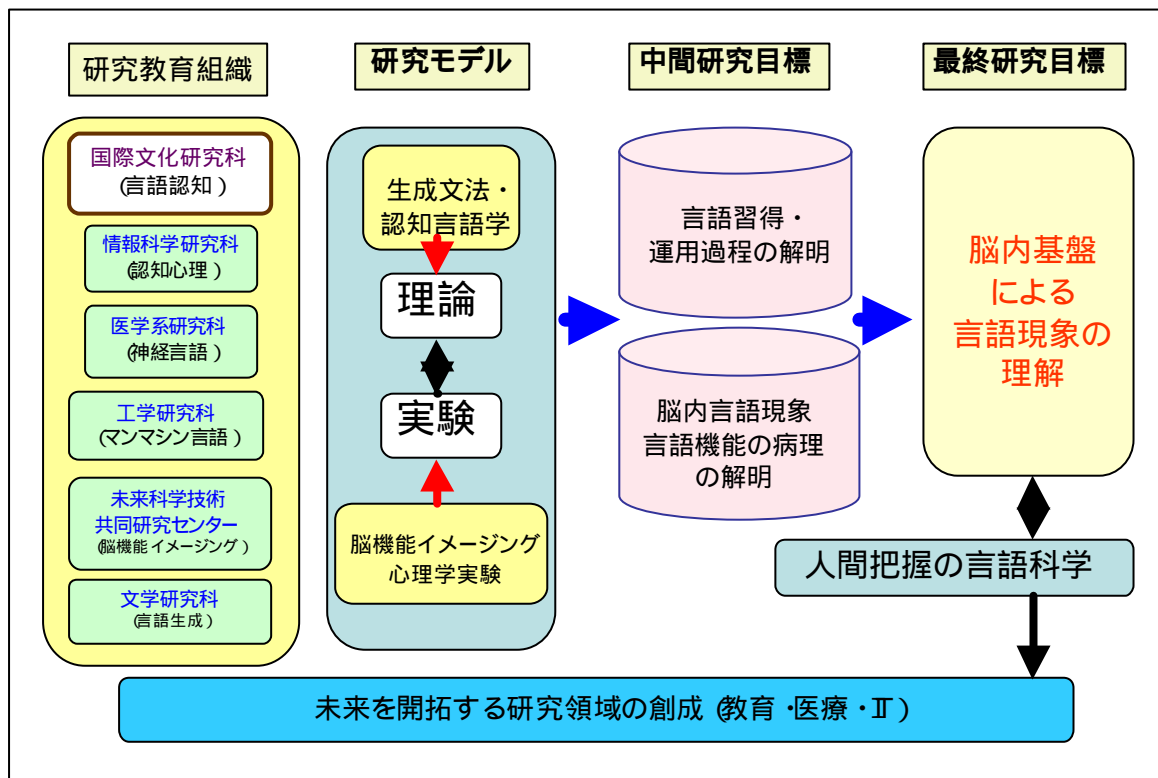


大 学 名	東北大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	国際文化研究科国際文化交流論専攻、国際文化言語論専攻、情報科学研究科人間社会情報科学専攻、工学研究科電気・通信工学専攻、未来科学技術共同研究センター、医学部附属病院高次機能障害リハビリテーション科、文学研究科言語科学専攻		
拠点のプログラム名称	言語・認知総合科学戦略研究教育拠点		
拠点リーダー氏名	堀江 薫	所属部局・職	国際文化研究科・教授
プログラムの概要	脳内基盤による言語現象を理解することにより人間把握の言語科学体系の構築を目指す文理融合型学際的研究拠点を形成し、新しい学際的課題に先導的に取り組む世界水準の人材育成を行う。		
拠点形成の目的・必要性	<p>言語学を中核にし、脳科学、心理学、情報工学など言語科学関連分野を包含した研究者集団による広範な学際的拠点を形成し、ヒト脳特有の言語の仕組みの理解、すなわち人間対人間のコミュニケーションにおける言語の獲得・運用・喪失過程の解明、およびその人間対機械の対話への応用を目的としている。これまでの実績をもとに言語科学の国際的拠点を形成し、脳機能学の知見から言語学モデルへのフィードバックによる理論再構築という新しい言語・認知科学体系の創成を構想している。</p> <p>脳の発達とそれに伴う言語の獲得と運用等の過程に関する総合科学的知見は人間の全体像把握の基盤的な層を形成するものである。文理融合型学際的研究拠点を形成することによって「人間把握の言語科学」体系の構築を目指している。その研究成果は社会的に広範な影響を与えることが予想され、新しい科学の研究領域の創成が期待できる。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>新しい言語科学分野の創成と達成目標：本研究拠点では5つの研究グループが共同で新しい「人間把握の言語科学」の創成を目指す。本拠点形成の目的は、これまでの共同研究の実績の上に 言語学を脳内言語野の観測データを基にした実証的な理論科学体系に仕上げること、本拠点を実証科学としての言語科学の国際的な研究発信拠点とすること、である。言語学理論の発展、非侵襲的系計測技術の精密化、データ分析技術、計算機シミュレーション技術の進展を考慮し、妥当な着地点と考える。拠点活動の影響は、教育、医療、ITなど広範囲に及ぶ。</p> <p>拠点の立ち上げと整備：拠点の運営は、拠点運営委員会が行う（研究総括責任者、研究総括分担者2名、外部有識者若干名で構成し、拠点運営に関わる事項の討議、決定をする。）また、研究グループ間の連絡会議を設置する。拠点の研究教育成果の推進と評価のために、他大学や民間の有識者からなる外部評価委員会を設置し、各年毎の評価を行い、拠点運営に反映させる。</p>		
教育実施計画	<p>教育の目的は、博士課程の学生を研究指導し、国際的水準の博士学位論文を作成させ、次世代を担う優秀な研究者を養成し、新規分野の言語・認知総合科学の創成に寄与する人材の育成である。</p> <p>優秀博士課程学生奨学制度：博士課程の学生選抜を見直し、優秀博士課程学生奨学制度を創設し、国際的に競争できる優秀な学生を吸引できるような仕組みを作り、授業料、研究費などに対応する奨学金を授与して、研究活動を支援する。</p> <p>ポストク制度：高等研究者を拠点に確保するためにポストドクトラルフェローを採用し、研究費を補償する。</p> <p>国際的研究活動能力養成：外国人研究者の雇用により、学生の国際的研究活動能力の養成(英文論文作成、研究討論、研究発表など)に努める。</p>		



研究教育組織：Research-educational organization

国際文化研究科：Graduate School of International Cultural Studies (Language and Cognition)

情報科学研究科：Graduate School of Information Science (Cognitive Psychology)

医学系研究科：Graduate School of Medical Science (Neuro-Language Interface)

工学研究科：Graduate School of Engineering (Man-machine Language)

未来科学技術共同研究センター：New Industry Creation Hatchery Center (Brain Function Imaging)

文学研究科：Graduate School of Arts and Letters (Language Generation)

研究モデル：Research Models

生成文法・認知言語学：Generative Grammar, Cognitive Linguistics

理論・実験：Theory, Experimentation

脳機能イメージング：Brain Function Imaging

心理学実験：Psychological Experiments

工学シュミレーション：Engineering Simulation

中間研究目標：Interim Research Objectives

言語習得・運用過程の解明：Investigation into Language Acquisition and Performance

脳内言語現象・言語機能の病理の解明：Investigation into Brain-Neurolinguistic Phenomena and Language Functional Deficiencies

最終研究目標：Final Research Objectives

脳内基盤による言語現象の理解：Understanding of Language Phenomena based on Brain-Neurolinguistic Evidence

人間把握の言語科学：Language Science for Understanding Human

未来を開拓する研究領域の創成（教育・医療・IT）：Creation of a Research Area for Future Generations (Education, Medicine, IT)